

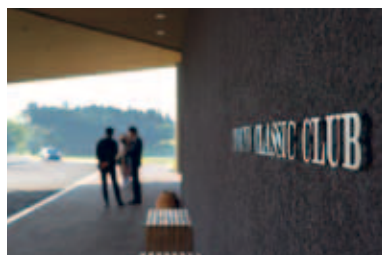


Lifestyle » Golf

文●九島辰也
text by Tatsuya Kushima
写真&取材協力●東京クラシッククラブ

■九島辰也が旬の話題やアイテムをセレクト J.ニクラウス、最後の"作品"

モータージャーナリスト兼コラムニストとして、クルマ、ボートからファッションまで、幅広くライフスタイルを語る九島辰也が、本誌読者へのリコメンドを毎号ご紹介する当企画。今回は、あのジャック・ニクラウスが設計を担当した『東京クラシッククラブ』をピックアップする。



日 本では最後の新しいゴルフ場ではないか……なんて囁かれるカントリークラブが今年5月にプレオープンした。その名は東京クラシッククラブ。あのジャック・ニクラウスが設計した本格的チャンピオンコースである。

では、いったいどんなゴルフ場なのか？
と言うと、日本では珍しいスタイルを持っている。というのも、敷地にはゴルフ場の他に、馬とのふれあいができる厩舎や丸馬場を有する馬主クラブエリア、無農薬野菜作りができるクラインガルテン（会員制の農園）、グランピング、陶芸教室などが付随しているからだ。まだ建設中の施設もあるが、この秋にはグランドオープンするというから興味深い。

そういった付帯設備がある理由はこのコ



01 カントリークラブであるここには馬の厩舎もある。プレオープンの日にはこんな光景も見ることができた。
 02 クラブハウスはまさに集いの場といった雰囲気。天井が高い開放感のある平屋づくりというのがこれまでのゴルフ場とは違う。
 03 これはクルマ寄せとなるエントランス付近を反対側から見た光景。手前の木の柵は馬をつないでおくためのものだ。
 04 場所は東金道路の中野インターを下りて3分のところ。都心からもそれほど遠くないのに自然の中にいる気分を満喫させる。
 05 プレオープン時のコンペ終了後の様子。クラブハウスからドーンとコースが抜けて見えるから、迫力満点の景色を楽しむ。



01



02



03



04



05

ンセプトが、"世界基準による真のカントリークラブ創設"を掲げているところにある。つまり、"ゴルフクラブ"ではなく"カントリークラブ"という意味合いだ。ゴルフだけでなく、人々が集う場所としての内容を持ち備えているのである。

この発想の元には、ジェントルマンズクラブ的な要素が見え隠れする。なぜなら英国におけるジェントルマンズクラブやマナーハウスといった施設がまさにそうで、イングランドやスコットランドにあるそれらはゴルフ場や乗馬クラブ、ポロの競技場なんかを近隣に備えている。かつて、夜にマナーハウスにチェックインし翌朝の散歩でそれを見つけ驚いたことがあった。

ゴルフコースは全長7220ヤード、パー72の

18ホールとなる。広大なウォーターハザードもあり、かなりテクニカルなコースであることは間違いない。と同時に造形は美しく、適度な高低差の丘陵が英国のコース的でもある。また、周辺の木々がコース以外のものを遮り自然の中でプレイしている感を強める。おおよそインターから3分という立地を打ち消してしまうほどだ。天候次第だろうが、湿度の低い晴れ晴れした状態なら北海道の大自然の中にもいるような錯覚に落ち入る。そもそもしどんよりと曇っていたら、スコットランドでプレイしている気分になるであろう。

基本のプレイスタイルが18ホールスルーというのもこころしく思える。"世界基準による……"という観点から想像するに、そうなるのは至極当然である。ゴルフを1日仕事

にしないヨーロッパやアメリカのゴルフスタイルが具現化される。

そんな東京クラシッククラブは、会員の同伴や紹介を必要とする完全なプライベートクラブであることを忘れてはならない。クラブの指針や運営に共感した者が会員となるということだ。その辺もジェントルマンズクラブ的といった雰囲気が漂う。過度なサービスや装飾を必要としないスタイルがまたいい。

といった東京クラシッククラブのコースは難攻不落。プレオープン初日に思い切り叩きのめされたことを付け加えておこう。

Information

東京クラシッククラブ

- 所在地:千葉県千葉市若葉区和泉町365
*カーナビ設定の場合は番地を237-3に
- phone:043-309-6661
- URL:<http://tokyo-classic.jp/>